
中国経済レポート No.51

拡大する中国の対アジア貿易黒字
～その現状と意味するところ

【目次】

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| 1. 拡大する貿易黒字 | p.1 |
| 2. アジアが欧米に代わって最大の貿易黒字相手地域に | p.1 |
| 3. 軽工業品に加えて機械類でも黒字拡大 | p.5 |
| 4. 対中貿易の深化によりアジアの生産力の底上げが進む | p.6 |

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

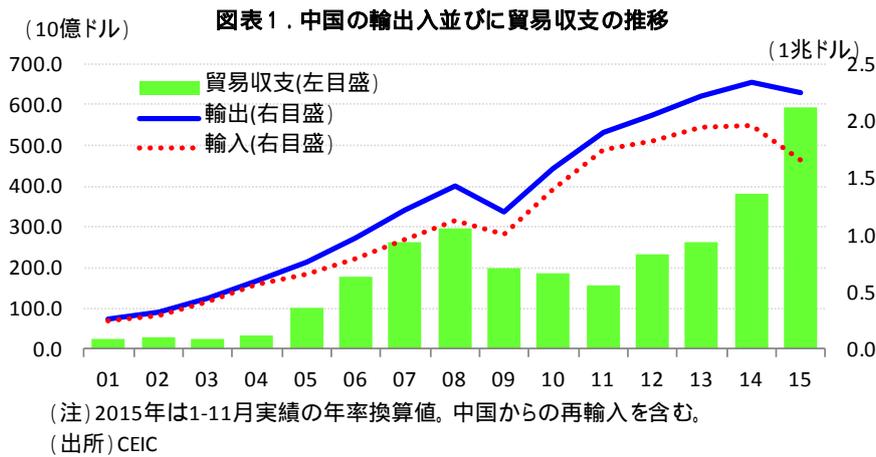
調査部 研究員 野田 麻里子

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

TEL: 03-6733-1070

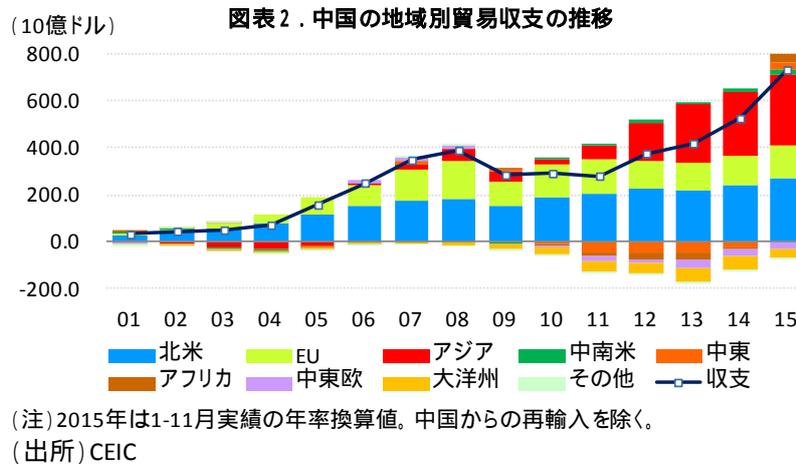
1. 拡大する貿易黒字

2015年の中国の貿易黒字は1-11月実績の年率換算値で約5920億ドルとリーマン・ショック時の2008年の2倍に拡大する見通しである。2015年は輸出入ともに前年比べて鈍化する見通しだが、原油をはじめとする一次産品価格の下落に加えて、「新常态」移行に伴う構造調整のもとで内需が低迷し、輸入が大幅に鈍化しているため、黒字幅が拡大している（図表1）。しかし、その一方で、中国国内で余剰となった製品が海外市場を席捲しているといったニュースもよく聞かれる。本稿では近年、地域別貿易収支でみて中国の黒字幅の拡大が顕著なアジアを中心にこうした現状について検証し、その意味するところを考えてみた。



2. アジアが欧米に代わって最大の貿易黒字相手地域に

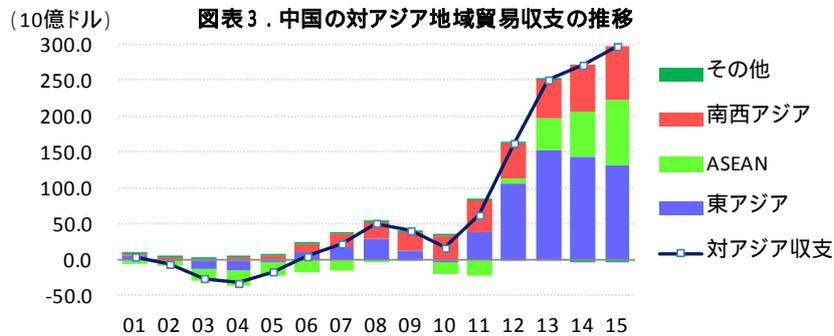
2008年のリーマン・ショック頃までは中国の貿易黒字相手地域¹と言えば、もっぱら欧米先進国のことであった。日本をはじめとする近隣アジア諸国から輸入する部材を組み立てて欧米市場に輸出するというサプライ・チェーンが機能していたからである。しかし、2006年には対アジア²貿易収支も黒字に転じ、2013年以降は北米を抜いて中国にとって最大の貿易黒字相手地域となっている（図表2）。



¹ 中国の輸入統計には中国からの再輸入が計上されているが以下はこれを除いたベースである。ちなみに2015年の貿易黒字は中国からの再輸入を除くベースでは7000億ドル超となる見込みである。

² アジアは東アジア（香港・澳門、日本、韓国、台湾）、ASEAN（10カ国）、南西アジア（インド、パキスタン、バングラデシュをはじめとする7カ国）、その他アジアの合計である。

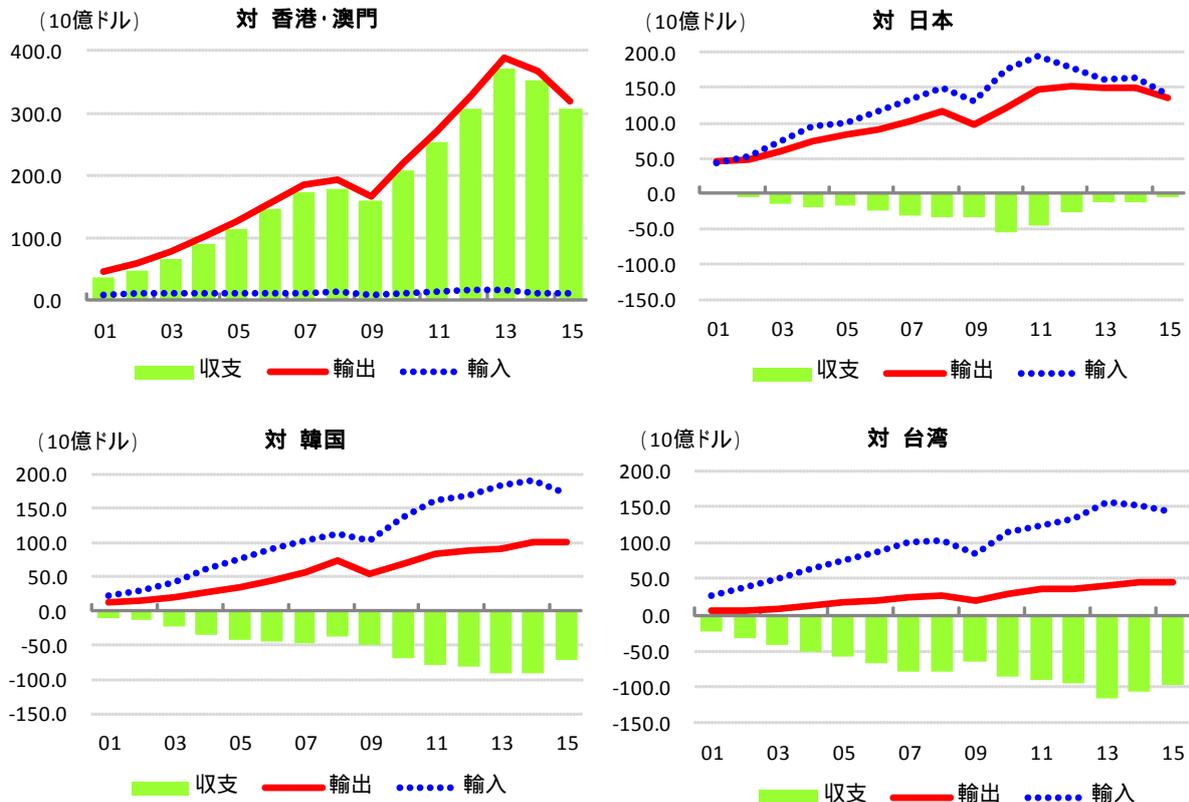
中国の対アジア貿易収支の黒字拡大を牽引しているのは東アジアである。しかし、対ASEANの貿易収支も2012年以降黒字が定着し、かつ拡大傾向にある。また、南西アジアとの貿易収支は2001年以降一貫して黒字であり、かつ近年、黒字幅が拡大している（図表3）。



(注) 2015年は1-11月実績の年率換算値。中国からの再輸入を除く。(出所) CEIC

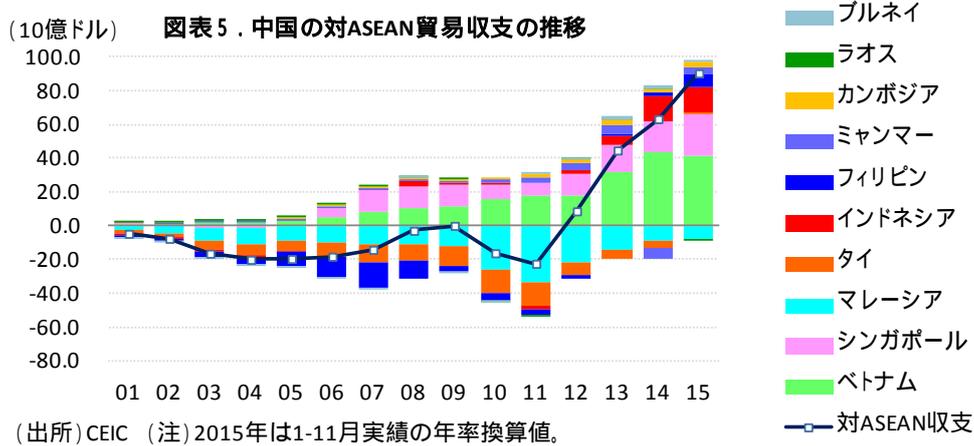
対東アジアの貿易黒字拡大の主因は香港・澳門向け輸出の大幅拡大を背景とした同地域での貿易黒字の拡大にある。日本・韓国・台湾との貿易については、輸出と輸入を合算した貿易総額では依然として日本が最大だが、対日貿易は輸出入とも漸減傾向にあり、特に対日輸入の減少幅が大きく、対日貿易赤字は縮小傾向にある。これに対して対韓国・台湾の輸出入は2015年（1-11月実績年率換算値）を除けば、緩やかな拡大傾向にあり、貿易赤字が継続している（図表4）。

図表4. 中国の対東アジア各国との輸出入・貿易収支の推移

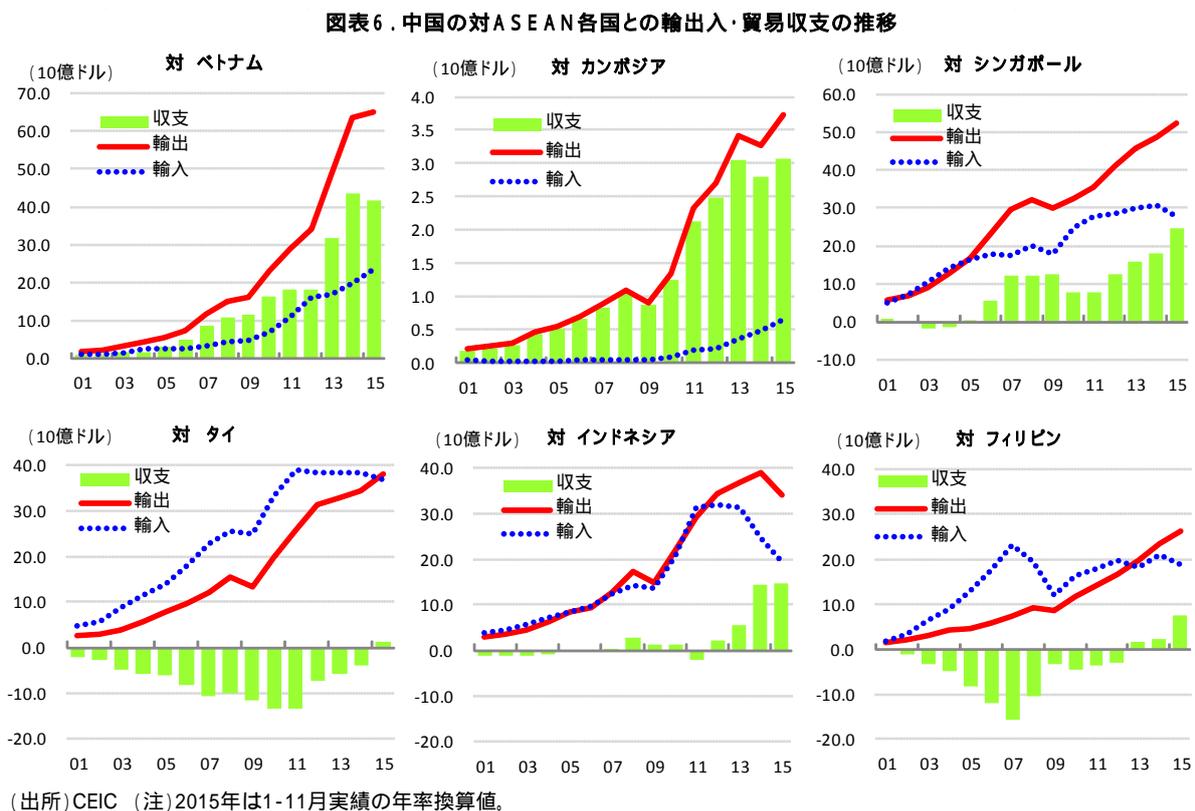


(出所) CEIC (注) 2015年は1-11月実績の年率換算値。

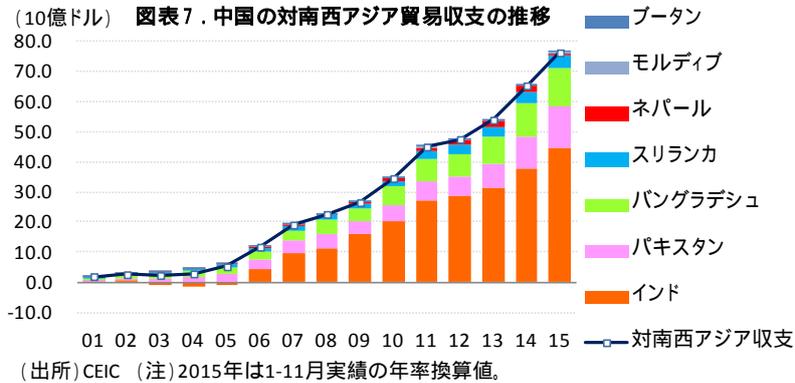
対ASEANの貿易収支はリーマン・ショック後の2009年を除き2001年から2011年まで赤字であったが、2012年に黒字に転じ、その後黒字幅が拡大している。これは2001年以降貿易黒字を計上していた対ベトナム、そして規模は小さいものの対カンボジアの貿易黒字が拡大したことに加えて、他の国々との収支も次々と黒字に転じていったためである。2015年（1-11月実績）にはASEAN10カ国のうち唯一2001年以降一貫して赤字を計上しているマレーシアとわずかに赤字となったラオス以外の8カ国に対して黒字を計上している（図表5）。



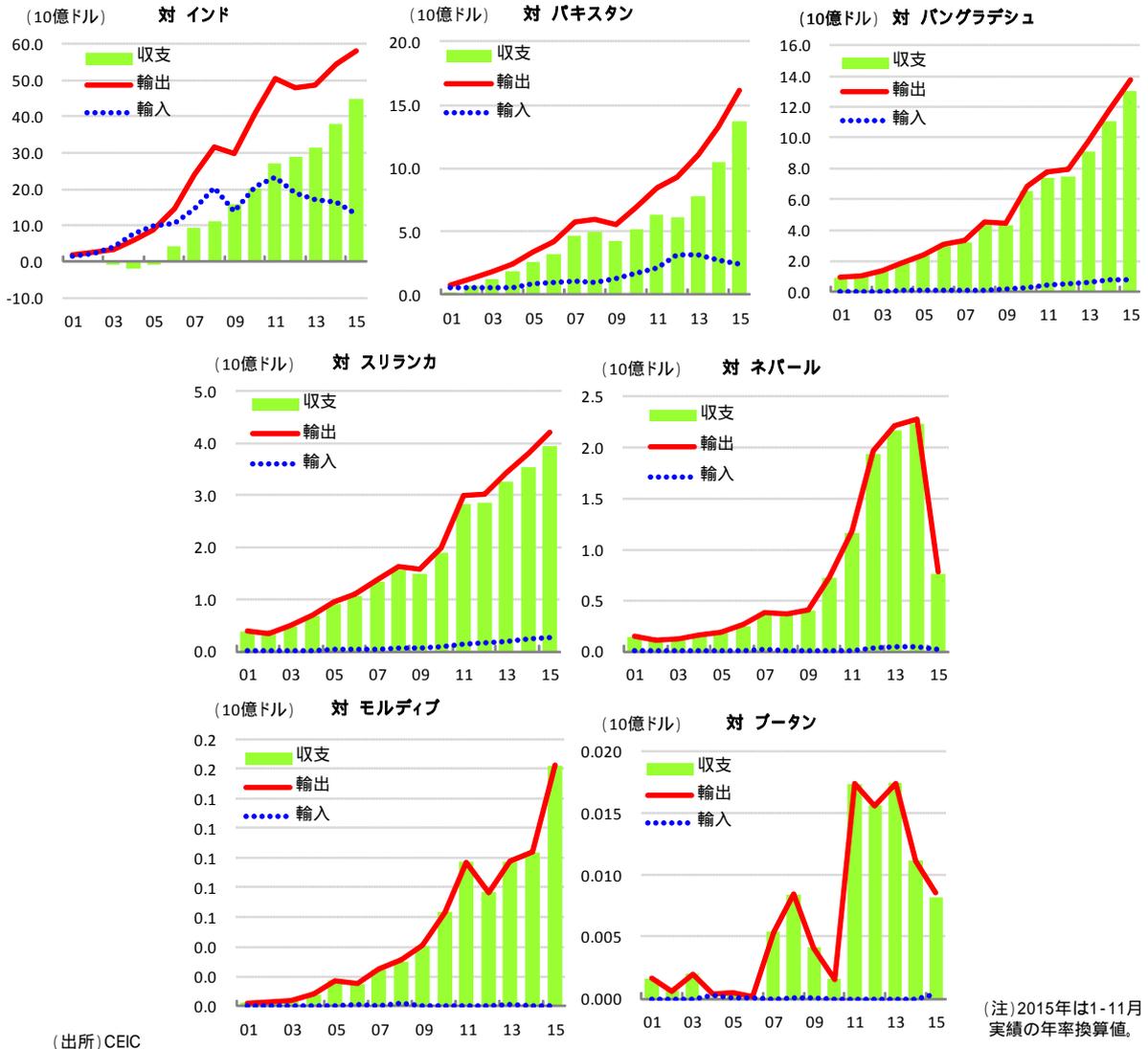
中でもベトナム、カンボジア、シンガポール、タイ、インドネシア、フィリピンについては、国によって貿易額の多寡はあるものの、これらの諸国からの輸入の伸びが緩慢なものにとどまる、ないしは減少する一方で、これら諸国向けの輸出が大幅に拡大し、結果として収支の黒字幅が拡大、ないしは赤字から黒字に転じる傾向がみられる（図表6）。



対南西アジアの貿易収支は、2003年～2005年の3年間に對インドの貿易収支が赤字化した以外は7カ国すべてに対して2001年以降一貫して黒字を計上している（図表7）。しかも中国の圧倒的な輸出競争力の前にインド、パキスタン以外はほぼ一方的な中国からの輸出の拡大の結果、貿易黒字が総じて拡大傾向を辿っている（図表8）。その結果、対南西アジア貿易収支の黒字幅は近年、對ASEANの貿易黒字にほぼ並んでいる（前掲図表3）。



図表8. 中国の対南西アジア各国との輸出入・貿易収支の推移



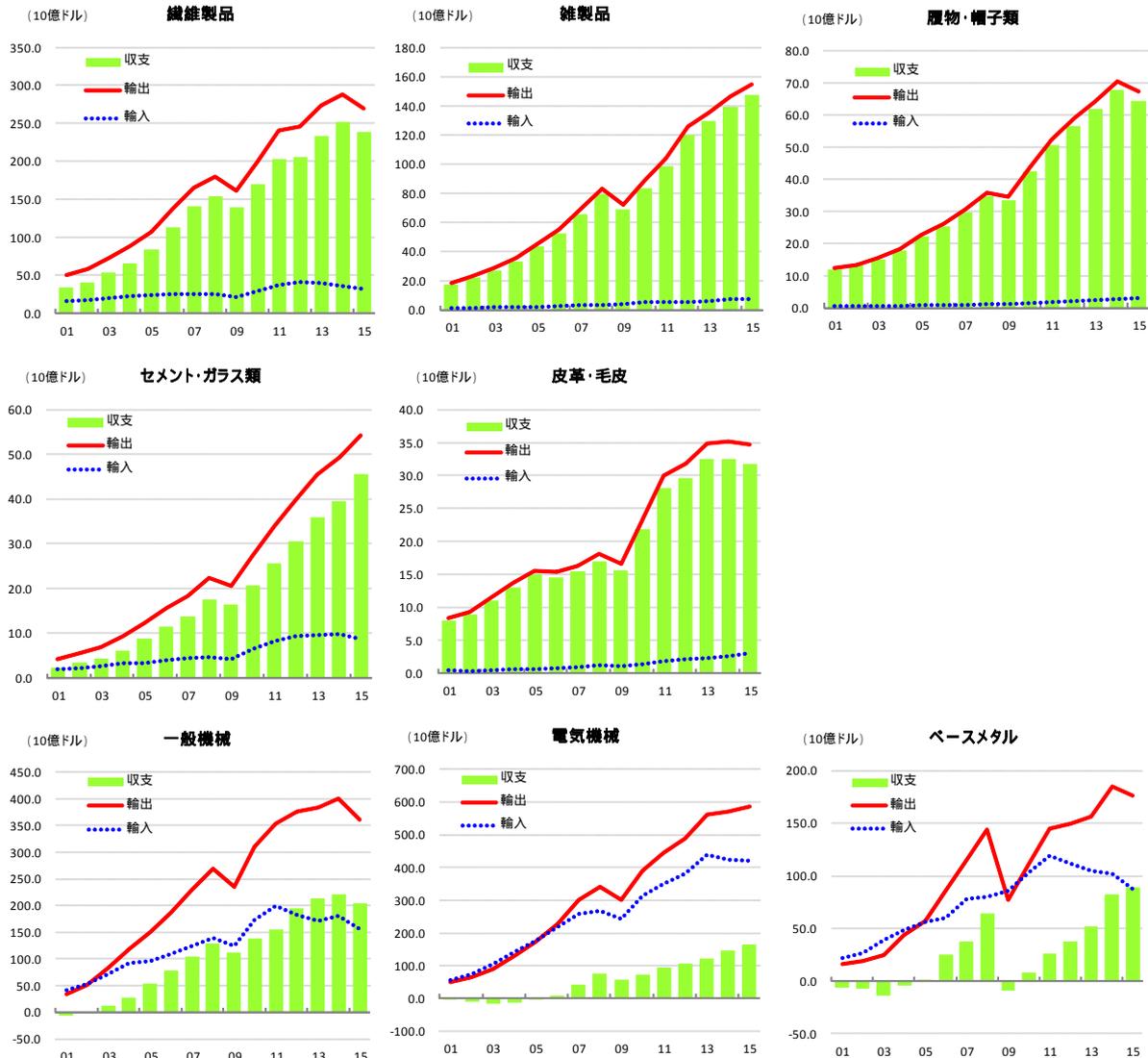
3. 軽工業品に加えて機械類でも黒字拡大

次に品目別³の貿易収支をみると、最大の黒字品目は2001年以降一貫して繊維である。次いで一般機械、電気機械、玩具などの雑製品、鉄鋼やアルミニウムなどのベースメタル、履物・帽子等、セメント・ガラス類、皮革・毛皮などが主要な黒字計上品目である。

主要黒字計上品目について輸出入の動向をみてみると、繊維、雑製品、履物・帽子等、セメント・ガラス類、皮革・毛皮の5品目については中国が圧倒的な輸出により黒字を稼ぎ出していることがわかる。繊維など労働集約的な産業では人件費の高騰などにより中国製品の競争力が低下していると言われるが、輸出入の動向をみる限り、蓄積された工業力、構築されたサプライ・チェーンなどの中国の強みが依然として有効であると言えそうである。

また一般機械や電気機械などの機械類は輸出入ともに拡大しているものの、輸出品の競争力が向上する一方、内製化の進展などもあり輸入の伸びが鈍化することで徐々に黒字幅が拡大していると考えられる。これに対してベースメタルは近年、輸入が鈍化する中で輸出が大きく伸びて黒字が拡大しており、内需鈍化で輸出ドライブがかかっている可能性が示唆される動きと言えそうである（図表9）。

図表9. 中国の主要黒字品目の輸出入・貿易収支の推移

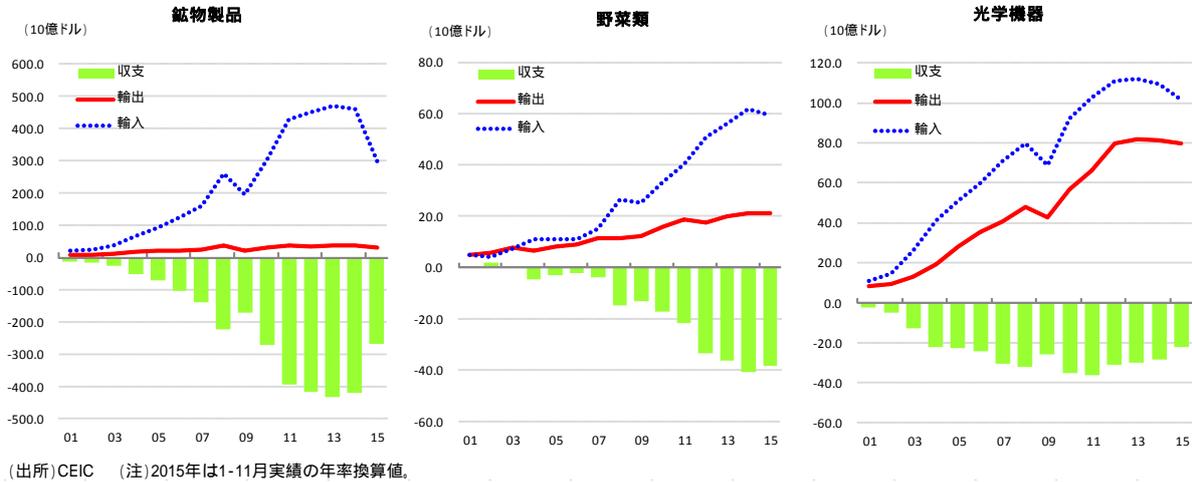


(出所)CEIC (注)2015年は1-11月実績の年率換算値。

³ HS 分類 21 部をベースに機械類は一般機械と電気機械に細分化し、その他を加えた 23 品目で分析している。

他方、赤字の大半は鉱物製品の赤字が占めている。なお、近年は野菜や穀物などの植物性生産品の赤字幅が小幅ながら拡大傾向にある。その他光学機器、動植物油、化学品、パルプなどで 2001 年以降一貫して小幅の赤字を計上している（図表 10）。

図表 10. 中国の主要赤字品目の輸出入・貿易収支の推移



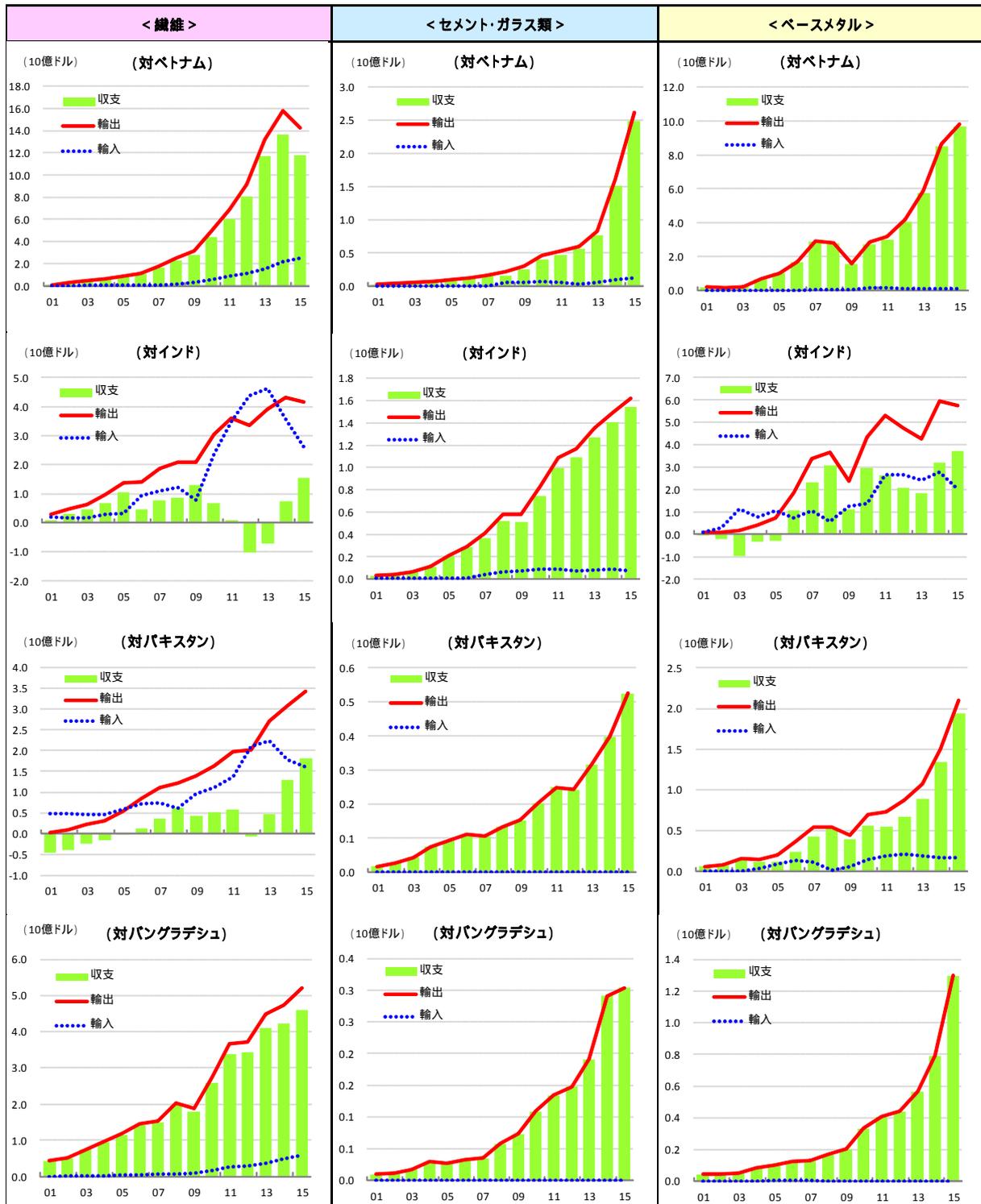
4. 対中貿易の深化によりアジアの生産力の底上げが進む

次に中国が貿易黒字を大幅に拡大させているベトナム、インド、パキスタン、バングラデシュについて品目別の収支の動向をみてみた（次頁図表 11）。

中国の最大の黒字品目である繊維についてはこの 4 カ国についても足元は黒字幅の拡大がみられる。しかし、比較的繊維産業が発達しているインド、パキスタンについては繊維原材料を中心に両国からの輸入も近年、拡大しており、黒字幅の拡大テンポは相対的に緩やかなものとどまっている。

一方、中国国内の生産過剰から輸出が拡大しているとみられるセメント・ガラス類、ベースメタルについてはこれら 4 カ国に対する中国の輸出は総じて大幅に拡大しており、これらの国々が余剰製品の買い手となっている可能性が示唆されている。しかし、これらの国々には大きなインフラ投資需要があるとみられ、ある程度は両者のニーズがマッチした動きとも言えるだろう。インフラの整備が進めば、これらの国々の輸出競争力も向上し、中国との貿易関係も将来的には大きく変化していく可能性がある。

図表11. 中国の対ベトナム・インド・パキスタン・バングラデシュの品目別輸出入・貿易収支の推移



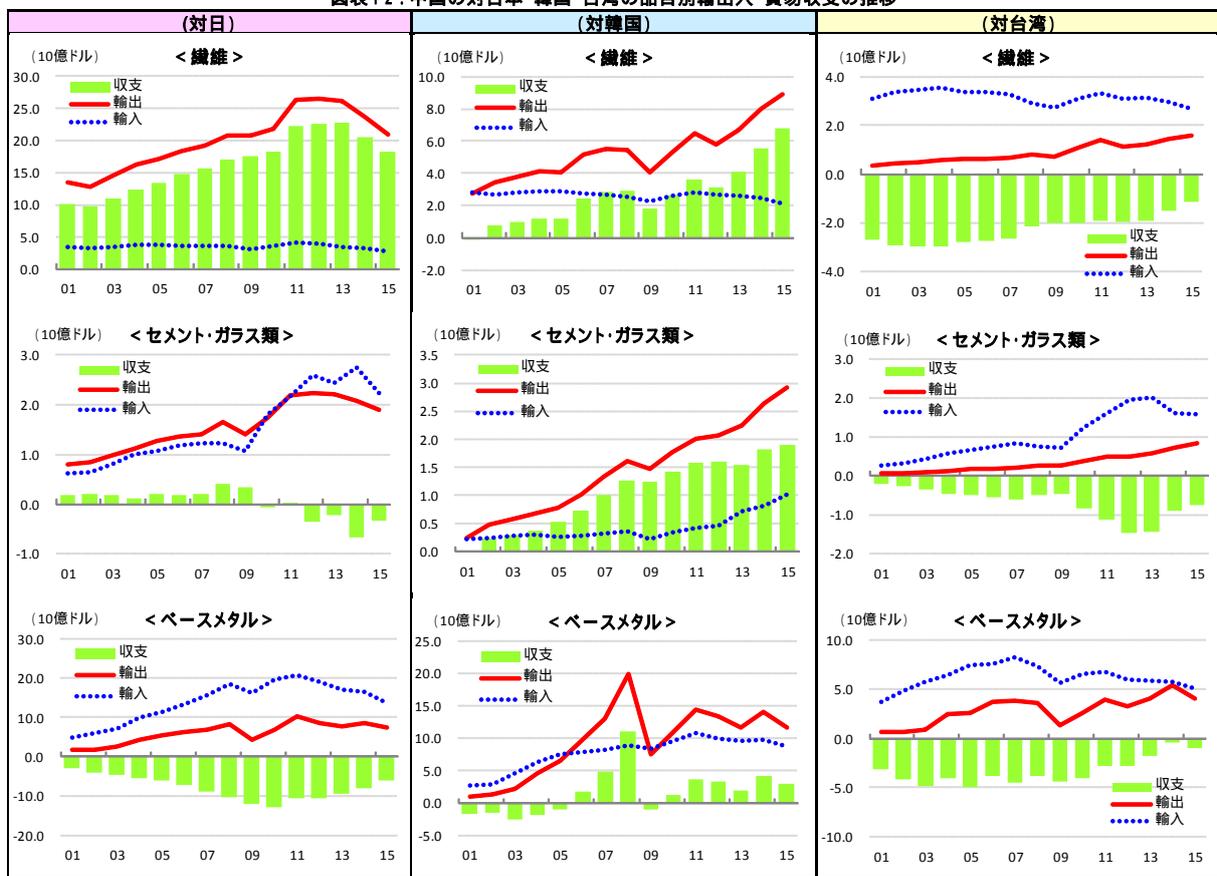
(出所)CEIC、World Trade Atlas (注)2015年は1-11月実績の年率換算値。ただし、バングラデシュは1-10月実績の年率換算値。

最後に中国が依然として貿易赤字を計上している日本、韓国、台湾との貿易についても品目別収支をみると、その中身は三者三様であることがわかる（図表12）。

例えば、繊維貿易については、中国とこれら3カ国との貿易は中国の原材料輸入、3カ国の製品輸入というのが大枠の構造である。こうした中で対日本、韓国では中国の製品輸出が大幅に拡大し、収支は黒字になっているのに対して、対台湾では製品輸出を大幅に上回る原材料輸入が続き、収支は小幅ながら赤字で推移している。

また、過剰生産業種と言われるセメント・ガラス類やベースメタルについては、これら3カ国についても中国からの輸出の拡大がみられるが、日本と台湾からはこれを上回る輸入が続き、足元でも赤字が続いている。これに対して、対韓国では輸入を上回る輸出が続いており、黒字が継続している。

図表12. 中国の対日本・韓国・台湾の品目別輸出・貿易収支の推移



(出所)CEIC (注)2015年は1-11月実績の年率換算値。

以上みてきたように中国の貿易黒字の拡大という表面的な事象の下で、繊維における台湾、あるいはインド、パキスタンなどとの競争ないし棲み分け、あるいはインフラ拡大につながる南西アジア諸国のセメント・ガラス類やベースメタルの輸入拡大などの動きもみられる。中国の圧倒的な輸出力が脅威であることも事実だが、中国との貿易関係の拡大の中でアジアの生産力の底上げにつながる深化の動きがあることも見逃してはならないだろう。

以上

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。